

令和7年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学年問わず基礎的な文法を定着させるためのドリルアクティビティを増やすことができた。
- ・「読むこと」「話すこと」に対する取り組みを充実させることができた。

(2) 課題

- ・語彙の知識・理解に関する定着が不十分である。小テストなどを設けて、振り返る機会をつくる。
- ・「英作文」に関して正答率を上げるため、授業内で英作文に取り組み、添削を受ける機会を多く作る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	正答率は目標値を約8ポイント上回る。区平均を約1ポイント上回り、全国平均を約4ポイント上回る。		
第2学年	正答率は目標値に等しい。区平均を約5ポイント下回り、全国平均には等しい。	正答率は目標値を上回る。区平均をやや下回り、全国平均を上回る。	
第3学年	正答率は目標値を約1ポイント上回る。区平均を約2ポイント下回り、全国平均を約1ポイント上回る。	正答率は目標値を上回る。区平均をやや下回り、全国平均を上回る。	正答率は目標値を上回る。区平均をやや下回り、全国平均を上回る。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を約9ポイント上回り、全国平均より約5ポイント上回り、区平均より約1ポイント上回っている。	正答率が目標値を約5ポイント上回り、全国平均を約2ポイント上回り、区平均に等しい。	

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を約1ポイント下回り、全国平均に等しい。	正答率が目標値を約2ポイント上回り、全国平均に等しい。	

い。区平均より約5ポイント下回っている。	く、区平均を約4ポイント下回る。	
----------------------	------------------	--

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を約2ポイント上回り、全国平均より約1ポイント下回り、区平均より約2ポイント下回っている。	正答率が目標値を約1ポイント上回り、全国平均を約3ポイント上回るが、区平均を約1ポイント下回る。	

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語や基礎的な文法を授業内にドリルアクティビティなどを通じて繰り返し、基礎の定着を図る。「書く」「話す」技能についても単元ごとの活動を通して定着を図る。	毎授業の帯活動に「話す」活動を取り入れ、定着を図る。自分自身のことや周囲のことについて「聞く」「書く」「読む」技能を用いる課題を単元ごとに設定する。	生徒同士やALTと話し合う場面や、自分自身について表現する活動を毎授業に設定する。定期考査後に、自分の現状を振り返り、改善する課題を設ける。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語や文法を、小テストやドリルアクティビティで確認し、基礎の定着を図る。「書く」「話す」についても基本的な活動を通して定着させる。	毎授業の帯活動に「話す」活動を取り入れ、スモールステップで定着を図る。「聞く」「書く」「話す」「読む」技能を用いる課題を毎授業で設定する。	生徒同士で話し合う場面や自分自身について表現する課題を多く設ける。定期考査後などに、自分の現状を振り返り、改善する課題を設ける。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語や基礎的な文法を授業内にドリルアクティビティなどを通じて繰り返し、単元テストを通して基礎の定着を図る。「書く」「話す」技能についても基本的な活動を通して定着を図る。	毎授業の帯活動に「読む」「話す」活動を取り入れ、定着を図る。自分自身のことや周囲のことについて「聞く」「書く」「話す」技能を用いる課題を毎授業で設定する。	生徒同士やALTと話し合う場面や、自分自身について表現する活動を毎授業に設定する。定期考査後に、自分の現状を振り返り、改善する課題を設ける。